

地域福祉セミナー 発達が気になる子の運動について考える会

特定非営利活動法人 さくらプラス

〒518-0613 三重県名張市上小波田 1806-13

助成事業の概要

7月2日(日) 10:00～12:00に行いました。今回は未就学児から小学生を対象とし、児童福祉施設をしている中で日々相談の多い「身体の体幹が気になる」「食事(偏食)に困っている」に関する悩みに寄り添った内容を提供したい想いで実施しました。運動に関しては、どんな子でも運動能力アップと題して自宅でも今日からできる内容の提供や専門的な目線から簡単に「今日帰ってできる」効果的な体の動かし方、子どもと関りながらの遊び方を中心お話していただきました。運動ができないのは遺伝ではない、子どもが体を動かすことが楽しくなれば運動に対して自信がある子になる。と保護者様と一緒に体を動かしながらお話していただきました。食の方では「偏食は改善できる」というテーマから過去の事例紹介や1人1人に合わせた対応についてお話していただきました。各ご家庭のお子様によってパターンが異なるため、事例をもとに家庭の環境や調理の工夫など何パターンもあることがよくわかる話をしていただきました。講演終了後に個別で質問を受付けていただき、それぞれのお悩みに対してお答えいただきました。

事業の成果

今回の講演会は、初めて未就学児や小学生の保護者を対象として実施しました。子どもの成長や発達について悩みを抱える保護者は多く、インターネットなどで様々な情報が溢れる昨今、具体的に

どこに相談すれば良いのか、悩んでいることに対してどう対処すれば良いのかと悩んでいる方はたくさんいると思います。事業所を利用されている保護者の方からも、様々な不安の声や悩み事をよく耳にしますが、その中で最も質問が多い『食』と『運動』を題材として取り上げ、今回講演して頂きました。特に、運動が苦手である、偏食で困っているといった悩みを抱える保護者は多く、講演会の題材としては保護者のニーズに沿ったものであったと思います。第一講演の『運動』ではハマダ運動神経スタジオの濱田先生に講演して頂きました。運動神経についてなど専門分野の話だけでなく、家庭でも簡単に実践できる運動や遊びを提案して頂き、保護者の方々も楽しそうに話を聞いておられました。事業所としても、濱田先生と定期的に連携を図り、活動の中に積極的に運動を取り入れているため、保護者のニーズや具体的な困り感を知ることができたことや保護者に対して具体的な話や提案ができたことは、大変有意義なことであったと感じています。第二講演の『食』では、小児精神科訪問看護療育アドバイザーの天岸先生に講演して頂きました。偏食について困っている保護者も大変多く、ぜひ話を聞いてみたいという声がたくさんありました。パワーポイントを使って、偏食の原因を具体的にわかりやすく説明して下さり、どのような形で偏食に向き合えば良いかということも実践例などを交えてお話頂きました。質疑応答では、実際の子どもの姿から、どのように対応すれば良いかということをお話して下さったので、「これならできる!」「早速やってみよう!」という声がたくさん上がっていま

した。アンケートにも、「講演会に参加できて良かった」「ここに来て良かった」と殆どの方が書いて下さっていました。保護者の方が少しでも楽しく子育てできるように、講演会という場を設けられたことや講演会を通じて事業所の存在や具体的な活動内容を知って頂いたことが、今回の大きな成果であると感じています。

成果の広報・公表

今回16名の保護者様、そのお子様(1名)にご参加いただきました。実施した二講演に対して、質疑応答の時間には、保護者様中心に「うちの子は○○で…」とたくさんの質問がありました。二講演ともに「苦手」「やりたくない」「食べたくない」などの感情からなるものであることから普段の保護者の関りが大切であることを強く伝える機会となりました。しかし、共働きや精神的余裕がない日もある中、福祉サービスや相談できる機関がたくさんあることを同時に伝え、日々の子育てに協力できるよう呼びかけました。講演終了後にご協力いただいたアンケートでは全員が満足していただき、「帰ったら子どもにやってみたい」「個別相談ができたことで成長に伴う悩みを一緒に共有できてよかった」など喜びの声が多く聞かれました。

今回の講演会は日曜日に開催であった為、託児や子どもたちの体験スペースなどがあれば、より多くの保護者に参加してもらえたと考える。

今後の展開

今回で4回目となる地域の障がい児、障がい者の知識や地域の取り組みを紹介する講演会を行いました。過去3回は中高生向けに将来の就職に関してをテーマに行っていましたが、今回は未就学児から小学生の児童を持つ保護者様、その関係者様

向けに行いました。相談できる場所、保護者様が子どもの将来に向けた専門的知識を聞ける場所として今後も継続して行っていきたいと思っています。地域において児童発達支援、放課後等デイサービスの認知度がまだまだ低いです。障がいを持った子供たちを育てる上で相談できる相手、福祉サービスを利用した支援を活用してほしい思いが強くなりますが、保護者様は自分の子どもの障がいを認めるハードルが高いです。しかし、「こういう子だ」「こういう性格だ」と思い込み、頼れるサービスを使わず成長していくと「その子供」が将来苦勞する現状があります。私たちは1人でも多くの子どもたちの未来に繋げる力をサポートできるよう、親のサポートの重要性、活用できるサービスの周知活動も同時に行っていきたいと思っています。